

新春を迎えて

下川町長 谷 一之



町民の皆様、あけましておめでとうございます。

輝かしい平成31年の新春を皆様とともに迎えられましたことを心からお慶び申し上げますとともに、日頃から町政運営に対する温かいご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて昨年の世相を表す漢字に「災」が選ばれました。昨年は、北海道胆振東部地震のほか、西日本豪雨、大型台風、日本列島上陸、記録的猛暑など、自然災害により多くの人が被災され、下川町におきましても地震による大規模停電により、多くの町民の皆様に影響が出ましたが、住民生活に必要な水道水につ

きましては、自家発電機等の速やかな対応により、水道水の安定供給に繋げることができました。今後もこの度のことを教訓に町全体の防災意識を高めながら、安全で安心な暮らしができるよう対策を進めて参ります。

昨年を振り返りますと、2月に韓国平昌で開催された冬季オリンピックにおいて、本町出身の葛西紀明選手、伊東大貴選手、伊藤有希選手が出場し、入賞するなどの活躍をされ、その勇姿に町民が感動とエネルギーをいただきました。

6月には、政府から「SDGs 未来都市」及び「SDGs モデル事業」に選定され、「2030年における下川町のありたい姿」の実現に向け、様々な人・企業・団体と連携して、積極的に取り組みを進めております。本体工事が完了したサンルダムについては、今年3月竣工を迎える予定であり、今

後、流域住民の意見を反映しながら、サイクリングロードやダム湖周辺を観光資源として、学びの場や憩いの場所にするなどダム周辺の整備を進め、「しもかわ珊瑚溜湖」の利活用を検討して参ります。

取り組んだ施策としましては、地域の重要な課題であります空き家対策として、国の支援をいただきながら、これまでよりもより有利な条件で空き家の利活用による移住の促進や老朽化した空き家の除却など環境整備を促進したところであります。

一方、町民の皆様身近な医療機関であります町立病院につきましては、前年度導入しましたCT（断層診断装置）により、より精度の高い診断が可能となったほか、今年度は更に、病気やケガを負った方に対する身体機能への回復を図るため、リハビリテーションの専門職である理学療法士を採用したところがあります。

現在、平成31年度を始期とする第6期下川町総合計画の策定作業を進めております。基本構想の目指す将来像に「2030年における下川町のありたい姿」を掲げ、その実現に向けた取り組みを進め、子どもからお年寄りまで、安心して暮らすことができる持続可能な地域社会を構築できるよう目指して参ります。

今年の干支は「亥年」です。その亥年である猪の肉は、万病を防ぐと言われ、無病息災の象徴とされており、町民の皆様が元気で健やかな暮らしを送ることのできる生活環境をつくって参りたいと思います。新年が皆様にとりまして、ご家族ともどもご健勝で充実した1年となりますよう心からお祈りしまして、年頭のご挨拶といたします。

※SDGsとは
持続可能な社会をつくるために世界で合意した開発目標
(例「すべての人に健康と福祉を」「住み続けられるまちづくりを」)

